

## 令和7年度 赤堤小学校自己評価報告書

<自己評価報告書を作成するに当たって>

- ・学校関係者評価アンケートの項目にそって、「学校の自己評価」「保護者・地域のアンケート調査」「児童のアンケート調査」等の分析から、次年度の改善点の方向性を示しています。
- ・「とても思う」「思う」の評価を肯定的な評価として受け止め、分析や考察に活用しています。
- ・児童調査アンケートは、毎年5・6年児童を対象としています。

### 重点目標

社会の中で自立して生きるための基礎的な力を育てる。  
○みんなの中で自分を生かす ○自分の行いを振り返る

### 重点目標に対する具体的な方策（基本方針）

#### 1 分かり易く興味深い学習指導の実施

各教科等において、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、確かな学力を身に付けさせる。また算数科における習熟度別少人数指導を実施し、基礎・基本の徹底を図るとともに、GIGAスクール構想に基づいた個別最適な学びと協働的な学びを実現する。

(1) 評価結果 ○は成果といえる評価 ●は課題となる評価 △増 ▲減

【保護者アンケート調査から】		
○本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。	(83.4%)	△
○本校は、子どもの話合いや発表などの機会がある。	(85.1%)	▲
○本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	(83.3%)	△
●本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	(72.1%)	△
【児童のアンケート調査から】		
○先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。	(94.6%)	△
○先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	(87.3%)	▲
○授業では、話し合ったり発表し合ったりする機会がある。	(94.6%)	△
○先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	(92.7%)	△
【学校の自己評価から】		
○児童一人一人が主体的に取り組み、「振り返りを活かした、よりよい学びの見通しをもたせる指導の工夫」を取り入れた学習指導を行っている。	(91.0%)	
○めあて→自分の考えをもつ→仲間との考えの交流→まとめ・振り返り」の展開を基本とした探究的、課題解決的な学習指導を行っている。	(97.0%)	
○児童の実態や指導内容に即して、個に応じた最適な学びの充実を図っている。	(93.0%)	
○ICTを積極的に活用し、分かり易い学習指導を行っている。	(97.0%)	

(2) 考察

児童の話し合いや発表の機会については、保護者からの評価の数値が昨年度から下がっている。一方で児童からの評価は、保護者の評価よりも10ポイント程数値が上回っている。学校での取り組みが、保護者に伝わっていないことが考えられる。

保護者・児童への質問項目の3つの中で、黒板の書き方やプリントの工夫については、その他の項目に比べて大きく数値が下回っている。その理由としては、ICTの活用が多くなってきていることから、黒板の書き方やプリントの工夫が十分ではないと考えられる。ノート指導には力を入れていて、これまで配布していたプリントの内容はタブレット上の画面で代用していることが多い現状がある。

(3) 改善案

授業での話し合いや発表の機会の設定、黒板の書き方やプリントの工夫について学校での取り組みが保護者に伝わるように、学校公開や保護者会等の機会を活用していきたい。校内研究を中心に今後も授業力向上を目指して研鑽に励むとともに、その成果が保護者に伝わるように学校公開での授業の内容を工夫したり、保護者会で取り組みを紹介したりしていきたい。

黒板の書き方やプリントの工夫についてはICTを活用しながらも、どの授業も課題把握から振り返りまで思考の流れが分かるようにする。日頃から教員同士で板書を見合い、情報共有しながら更なる授業力、指導力の向上を目指す。

2 集団づくりを通して仲間と協働する教育活動の推進

児童が、自らが所属する校内の様々な集団の中で、発達の段階に応じて自分の役割を自覚し、集団内の仲間と互いによさを認め合い、生かし合いながら、協働してその集団の目標を達成する教育活動を行う。

(1) 評価結果 ○は成果といえる評価 ●は課題となる評価 △増 ▲減 ☆新項目

【保護者アンケート調査から】	
○運動会は、子どもにとって楽しい。	(95.9%) ☆
○運動会は、子どもにとって達成感がある。	(95.6%) ☆
○学習発表会は、子どもにとって楽しい	(89.5%) ☆
○学習発表会は、子どもにとって達成感がある。	(91.1%) ☆
○本校は、子どもの意欲を大切にしている。	(88.4%) ▲
【児童のアンケート調査から】	
○運動会は楽しい。	(87.3%) ☆
○運動会は達成感がある。	(85.4%) ☆
○学習発表会は楽しい。	(83.7%) ☆
○学習発表会は達成感がある。	(81.9%) ☆
○先生は、児童の意欲を大切にしている。	(84.2%) ▲
【学校の自己評価から】※数値なしの項目・・・A評価B評価の合計が100%	
○目標や意欲、興味・関心をもち、粘り強く友達と協調して取り組む姿勢（非認知能力）を育成している。	(96.0%)
○児童一人一人がめあてと役割をもって取り組み、めあてを達成し役割を果たす経験を、計画的・継続的に積み重ねていけるようにしている。	
○自分の役割を自覚し、互いによさを認め、生かし合いながら協働して集団の目標を達成する教育活動を行っている。	



#### 4 個性や能力、発達の段階に応じた組織的な指導の推進

児童一人一人への理解を深め、個別の状況に応じた最適な指導の手だてを明確にし、保護者・関係機関との情報共有、連携体制の整備を推進する。

(1) 評価結果 ○は成果といえる評価 ●は課題となる評価 △増 ▲減

【保護者アンケート調査から】	
○子どもたちは、自己肯定感をもっている。	(81.3%) △
【児童のアンケート調査から】	
○目標をもち、その実現に向けて努力している。	(84.9%) △
【学校の自己評価から】※数値なしの項目・・・A評価B評価の合計が100%	
○特別支援委員会を通して支援の必要な児童の情報が共有され、校内すべての人材、関係機関を積極的・効果的に活用し、組織的に教育活動を行っている。	(96.0%)
○不登校児童等への、個々の状況に応じたきめ細やかな支援を行っている。	(97.0%)
○児童一人ひとりの理解を深めるとともに複数の教職員で共通理解を図り、共有している。	
○児童の発達の段階や個別の状況に応じた指導を行っている。	
○Q-U調査や「学校生活アンケート」等の結果の分析を、孤立しがちな児童、仲間関係で悩む児童、不登校や問題行動等の早期発見・早期対応に生かしている。	
○関係機関を積極的・効果的に課長氏、連携して特別な配慮の必要な児童への支援を行っている。	

#### (2) 考察

児童一人一人の理解を深め、複数の教職員で情報を共有しながら指導に当たる体制は概ね定着していることが分かる。Q-U調査や学校生活アンケートの結果を基に、孤立しがちな児童や人間関係に課題を抱える児童への早期対応を図るなど、組織的な取組が成果として表れている。

一方で、不登校児童への支援については引き続き重要な課題であり、個々の状況に応じた支援の在り方や、安心して過ごせる居場所の確保について、さらなる充実が求められる。

#### (3) 改善案

不登校や特別な配慮を要する児童への支援については、担任だけに任せるのではなく、特別支援委員会、スクールカウンセラー、関係機関と連携した組織的な対応を一層推進する。不登校支援教室(ほっとルーム)を効果的に活用し、児童が安心して過ごせる居場所を確保するとともに、個々の状況に応じた段階的な支援を行っていく。

#### 5 保護者、地域をパートナーとした教育活動の推進

保護者・地域を、教育活動を充実・発展させるためのパートナーとし、役割分担をしてそれぞれが責任を果たすとともに、学校運営や教育活動への参画を得て学校への理解を深め、学校運営の中期的な安定を図る。

(1) 評価結果 ○は成果といえる評価 ●は課題となる評価 △増 ▲減

【保護者アンケート調査から】	
○本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。	(93.2%) ▲
○本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。	(88.8%) ▲

○本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。	(94.6%)	▲
○本校は、地域の人材や施設を教育活動に活かしている。	(84.7%)	△
○本校は、地域の活動などに協力的である。	(85.4%)	△
○本校は、地域に情報を提供している。	(81.3%)	△
【地域の方へのアンケート調査から】		
○学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子が分かる。	(95.8%)	△
○学校は、安全性を高めようと地域と協力している。	(87.5%)	▲
○地域の人や施設を教育活動に活かしている。	(87.5%)	△
●学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる。	(79.2%)	△
【学校の自己評価から】		
○保護者や地域の方々に教育活動の状況を積極的に発信している。	(94.0%)	
○学校運営委員会を通して、学校運営や各学年の実態を伝え、保護者・地域から現状に対する考えを聞き、教育活動に生かした。	(96.0%)	

## (2) 考察

保護者からは、ホームページやメール等での情報共有について、前回から90%を下回る評価になっているため、改善が必要である。

地域の方からの評価からは、学校からのお知らせについては引き続き高い評価を得た。しかし、地域の安全性を高めたり、地域の人材や施設を活用したりすることについては、90%を下回る評価となった。また、学校公開や道徳地区公開講座などで学校の様子が分かるという項目は昨年度を上回っているとはいえ、79%と低い数値である。今年度も学校公開や直接授業を参観する機会があったにも関わらず、評価が高いとは言えず改善が必要である。

## (3) 改善案

ホームページでの情報共有について、学校行事だけでなく、各学年の行事や授業の様子を計画的に発信することで、学校での取り組みが保護者に伝わるようにしていく。OJTの機会を活用して、ホームページの更新の方法を周知し、教員の情報発信力を高めていきたい。また、学校公開に限らず、いつでも本校の教育活動の参観が可能であることを地域の方へも周知し、開かれた学校づくりを推進する。

## 6 キャリア・未来デザイン教育の推進

キャリアパスポートを活用しながら、自己実現を図る態度や自らの生き方の糧となる勤労観や職業観の育成を図る。

### (1) 評価結果 ○は成果といえる評価 ●は課題となる評価 △増 ▲減

【保護者アンケート調査から】		
○子供たちは、自分の将来に向けて、勉強や運動を一生懸命取り組んでいる。	(82.3%)	△
●本校の教員は、子どもにも目標をもたせ、その実現のために支援している。	(66.3%)	▲
●本校では、子どもの生き方や将来のことについて考える授業がある。	(55.8%)	△
【児童のアンケート調査から】		
○自分の将来に向けて、勉強や運動を一生懸命取り組んでいる。	(84.2%)	▲
○目標をもち、その実現に向けて努力している。	(84.9%)	△
●自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。	(72.7%)	△
●区立中学校に関する情報が提供されている。	(47.3%)	△

【学校の自己評価から】※数値なしの項目・・・A 評価 B 評価の合計が100%	
○「キャリアパスポート」を作成し活用することで、振り返りを生かした学習や活動を、年間を通してすることができている。	(90.3%)
○学校だけでなく地域の方々や外部講師とも学習することで、多様な他者との豊かな関わりを通し主体性を育成している。	(97.0%)
○「たてわり活動」を行うことで、各学年の実態に応じて協働する態度を養っている。	

## (2) 考察

「目標をもち、その実現に向けて努力している。」「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある。」の項目では、児童の評価が前回より高い評価を得ている。一方、保護者からは、「本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している」については、66%と低い数値である。また、区立中学校に関する情報が提供されているについては、前回より改善され47%となっている。

## (3) 改善策

今年度同様に、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等、教育活動全体を通して、児童に取り組みのねらいを明確に示したり振り返りをしたりしながら、自己実現を図る態度、勤労観や職業観の育成を図る。さらに、必要に応じてゲストティーチャーの活用など効果的に実施し、自分の生き方や将来のことにつなげられる授業にしていく。また、キャリアパスポートによる学期ごとの振り返りを継続的に行い、学年が上がるにつれての成長を実感できるようにしていく。学習の様子や成果を、学校ホームページや保護者会等で、地域や保護者にも伝えていくことで、地域や保護者の方々の理解も推進する。

## 7 働き方改革の推進

(1) 評価結果 ○は成果といえる評価 ●は課題となる評価 △増 ▲減 ☆新項目

【保護者アンケート調査から】	
○学校は、働き方改革が進んでいる。	(82.7%) ☆
【学校の自己評価から】	
○ICT 機器やインターネット環境を活用し、会議や情報共有、作業を簡略化している。	(97.0%)
○「主体性を発揮し学校を創る教師」をめざすため、自分の考えた授業づくりや学校への提案をしやすい環境になっている。	(96.0%)
○最低限の授業時数の確保、行事や会議などの精選が進んでいる。	(80.0%)

## (2) 考察

学校からの評価として、どの項目も前回よりも値が上回っている。しかし、授業時数の確保や行事等の精選の項目については、80%と低い数値となり課題となっている。

## (3) 改善策

授業時数や行事、会議等の精選については、学校評価全体会や各部会での検討を引き続き行っていく。そして、教師一人一人が主体性を発揮してよりよい学校創りができることを目指すとともに、児童や保護者に寄り添う支援ができる時間的余裕を生み出していく。